

トピックス



大阪市北区天満橋1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

平成25年度 森林・林業交流研究発表会が行われました。



姫路市産業局・アジア航測株式会社

【森林整備部 技術普及課】 12月12日(木)～13日(金)、近畿中国森林管理局大会議室において、「森林・林業交流研究発表会」を開催しました。

2日間で、延べ200名が参加し、(独)森林総合研究所森林農地整備センター、林業研究機関(石川県、三重県、奈良県、鳥取県)、兵庫県、姫路市、若桜町(鳥取県)、山崎高校(兵庫県)、北桑田高校(京都府)、京都府立林業大学校、各森林管理署などから、22課題の発表が行われました。

局長賞は、一貫作業システムによる低コスト造林について、伐採から植栽まで一体的な取り組みによる成果の報告を行った兵庫森林管理署及び広島北部森林管理署の2課題、壊れにくい作業道づくりについて、地形地質情報図を活用した作業道づくりの取り組みを報告した姫路市と事業体の共同発表課題が受賞しました。

なお、今回の発表会では、特別発表を含め、シカに関する発表が8課題あり、行動把握や防護柵の工夫、食用としての活用など、各地域における取り組みが報告され、2課題が賞を受賞しました。

また、特別発表として、福井県総合グリーンセンター、兵庫県森林動物研究センター、(独)森林総合研究所関西支所、(独)森林総合研究所林木育種センター関西育種場から、それぞれの取り組みに関する発表が行われ、研鑽・交流の場となりました。



◎ 近畿中国森林管理局長賞

- ・トータルコスト縮減に向けた伐採・造林の一体的取組(兵庫森林管理署 藤木 俊行・北垣 寛武)
- ・低コスト林業への取り組みについて
一伐採・搬出・植栽を一体化した事業発注を実施して一(広島北部森林管理署 弘兼 光秀・西田 一紀)
- ・姫路市における循環型林業の推進について
～地形地質情報図を利用した壊れにくい作業道づくり～(兵庫県姫路市産業局アジア航測株式会社 大東 聡谷口 享史・今村 遼平・羽野 博)

◎ (独) 森林総合研究所関西支所長賞

- ・シカの動態に対応した、防護柵の最適な設置方法の考察(京都大阪森林管理事務所 遠藤 歩)

◎ (独) 森林総合研究所林木育種センター関西育種場長賞

- ・高密度に天然下種更新した海岸クロマツ林の高密度管理(Ⅰ)
一除伐方法と地掻きの効果一(石川県農林総合研究センター林業試験場 八神 徳彦)
- ・高密度に天然下種更新した海岸クロマツ林の密度管理(Ⅱ)
一重機を用いた低コストな本数調整一(石川森林管理署 甲斐 晴久)

◎ (一社) 日本森林技術協会理事賞

- ・林道等の鉄鋼スラックを活用した路盤改良
一路盤の安定と維持管理コストの削減一(広島森林管理署 井 誠喜・元吉 祐作・本谷 駿介)

◎ (一財) 日本森林林業振興会会長賞

- ・民国連携による地域一体となった鳥獣害対策活動について
一若桜町におけるシカ捕獲と資源活用の取組一(鳥取県若桜町・鳥取森林管理署 山本 伸一・大石 政弘)

◎ 森林・林業交流研究発表会審査委員長賞

- ・端材からの発見～捨てられる木の利用で環境を守る～(京都府立北桑田高等学校 武田 悠作・平野 由里・山田 蓮・吉田 みなみ)

また、12月4日（水）に林野庁で開催された国有林野事業業務研究発表会において23課題が発表・審査されました。近畿中国森林管理局からは3課題が推薦され、うち1課題が受賞を果たしました。

《森林技術部門》

- 人工林に介在する天然性広葉樹の更新状況（森林技術・支援センター 池田 則男・矢野 宣和）

《森林保全部門》

- シカ防護柵を用いた緑化への試み ～大杉谷国有林を事例として～（三重森林管理署 濱口 昌敏・松村 尚徳）

《森林ふれあい部門》 一林野庁長官賞 優秀賞一

- 官民共同による自然休養林の環境整備・保全活動について ～明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の取組～（京都大阪森林管理事務所 岡本 哲知 ・ 明治の森箕面自然休養林管理運営協議会 鎌谷 計三）



地域ニュース

衣笠山国有林で森林教室開催！ ～京都市立金閣小学校～

【京都大阪森林管理事務所】 1月29日（水）、衣笠山国有林において京都市立金閣小学校の5年生（78名）の児童を対象とした「森林教室」を開催しました。当日は、協力ボランティアとして京都森林インストラクター会から5名、金閣小学校から先生4名、箕面森林ふれあい推進センターから1名、当所から所長外2名がスタッフとして参加しました。また、京都新聞社の記者も同行しました。

今回は、7月の森林教室から引き続き「水、土、木材」をテーマに、森の働きを更に深く学ぶことを目標として実施したものです。

開会にあたり、京都森林インストラクター会会長より、本日の目的と注意事項、スライド「衣笠山と人とのつながり」を使った森の役割の説明を受けた後、3班に分かれて衣笠山周回コースを出発しました。

最初に訪れたのは、現在の6年生が2年前にナラ枯れ伐採跡地に落葉広葉樹を植樹した場所です。ここで、今は落葉していて幹しか見る事が出来なかったものの、夏と冬では樹木の様子が違うことや周りを囲っているシカ防護柵の役割などを学びました。



また、近くの切り株に多数重なり合って発生しているヒラタケを見つけました。

樹齢125年といわれるヒノキの人工林のところでは、当所職員が、家やお寺の柱、家具など、用材として使えるよう木を育てるためには、間伐など人の手がかかせないことや、用材として使えない端材は、割り箸、チップ燃料にするなど、木は余すところなく利用できる資源であることを説明しました。また、ここでは小学校の先輩達が設置した、ほだ木に生えたシイタケを観察しました。

次に向かったのは尾根で、急な坂を一気に登ります。土がむき出して段差のある足場にもかかわらず、みんな元気に登り切りました。

尾根を歩く途中には、マツクイ虫による枯損木があり、ちょうど受注業者による伐倒作業が行われていたことが

ら、その作業を見学しました。まず、梢が赤茶になった様子を観察し、生きている松の木との違いを確認した後、伐倒作業を見学しました。どの子も皆じっと見つめて、迫力ある伐倒の様子に見入っていました。また、森林インストラクターから「なぜ、松が枯れたのでしょうか？」の問いかけに、「カシノナガキクイムシ」と元気に答える子がいました。ナラ枯れと混同しているとはいえ、前回学んだことを少しでも覚えていてくれたことを嬉しく思う場面でした。



冬の森では一際目立つソヨゴ、カナメモチ、ピラカンサの赤い実や、ネジキの赤い冬芽の観察、リスの食痕、通称「エビフライ（マツボックリ）」やイノシシが樹木に体をこすり付けてできた泥の痕跡の発見、落ち葉が積もってできたふかふかの土を踏みしめながら衣笠山を一周しました。

下山後、各班で振り返りを行い、子供達からは「動物の痕跡があったので、姿は見えないけれど、森にはいろんな動物が棲んでいるんだね」「いろんなキノコを見たよ」「森が災害を防いでいるんだね」「景色がきれいだった」「大人になっても森林を大切にしたい」等の感想が聞かれました。

最後に京都大阪森林管理事務所長より「今日はいろんな生き物が棲んでいる森を観察して来ましたね。また、こうした森が色々な形で人間の役にも立っていることを知ってもらえたと思います。これからも、このような多様性のある森に関心を持ち続けてください。」との閉会の挨拶で終了しました。



架線集材研修会の開催

【山口森林管理事務所】 1月8日（水）、架線集材に関連する知識の習得を図るため、研修会を開催しました。滑山25林班の丸太生産箇所の請負契約者で、架線により列状間伐を実施している吉川林産興業（株）に講師を依頼したところ、快く引き受けていただきました。

当日は講師の現場代理人、当所の若手職員、経験の浅い森林官、ベテラン職員、監督補助員が集まり、元柱や土場において、索張り、集材及び採材作業、安全対策等について説明を受けました。

若手職員や経験の浅い森林官から次々と繰り出される質問に講師も頭を抱える状態に。そこは経験豊富なベテラン職員や監督補助員のフォローもあり、内容の濃い充実した研修会となりました。



講師の説明からは請負事業体の技術の高さを感じることができ、また、経験豊富なベテラン職員や監督補助員からは妥協のない安全対策の必要性について教わりました。

職員からは「重たい木材を搬出することは、危険を伴う大変な作業で、安全対策が一番重要ですね。」と感想がありました。現場代理人の方には、事業の追い込み時期にもかかわらず対応いただき、ありがとうございました。



お知らせ

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【2月の展示スケジュール】

2/3～2/28 レクリエーションの森スキー場紹介

【近畿中国森林管理局 保全課】

シリーズ 保護林 第9回

近畿中国森林管理局の保護林

くろぞうたに

黒蔵谷森林生物遺伝資源保存林 [紀南森林計画区]



谷筋の林相



ツガ大木

黒蔵谷森林生物遺伝資源保存林は、和歌山県田辺市本宮町に位置する黒蔵谷国有林及び大杉大小屋国有林にあります。森林と一体となって自然生態系を構成する生物の遺伝資源を森林生態系内に保存し、将来の利用可能性に資することを目的として保護しています。

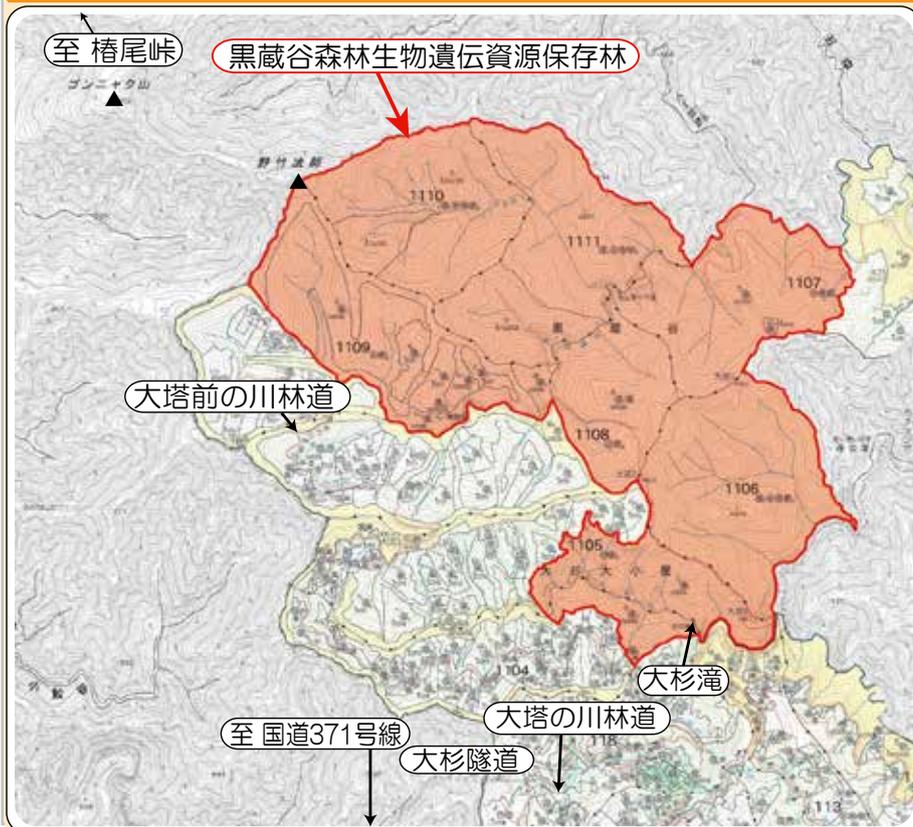
この保護林の面積は515.87haで、水源かん養保安林、鳥獣保護区、カモシカ保護地域などにも指定されています。保護林境界には野竹法師(971m)があり、登山道が整備され、休日には登山者が訪れます。

【黒蔵谷森林生物遺伝資源保存林に生息・生育する動植物】

- ◎ 植物：アカガシ、ウラジロガシ、ヒノキ、ツガ、モミ、ブナ、サワグルミ、サカキ、シキミ、ホンシャクナゲ、スズタケ、ミヤマシキミ、コカンスグなど
- ◎ 動物：ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、メジロ、シジュウカラ、ヤマカガシ、オオダイガハラサンショウウオ、ブチサンショウウオ、タカハヤ、ムカシトンボなど

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。



【黒蔵谷森林生物遺伝資源保存林へのアクセス】

- ◎ 椿尾峠から・・・椿尾峠よりゴンニャク山を経て野竹法師へアプローチ。
- ◎ 大杉隧道から・国道371号線より剣道下川上牟婁線を経て大杉隧道へアプローチ。大塔の川林道から大塔前の川林道へ。

